◎2023年度教育水準の向上に向けた取組についての報告と取組事業としての自己評価
【東京都補助事業】

①幼児教育の内容・方法の改善
②幼児教育を担う人材の育成・専門性の向上
③家庭・地域における幼児教育の支援
④新型コロナウイルス感染症に対応した取組

実施 回数・期間	事業の 分類	実施内容	園児にとっての成果・効果等	取組事業 の評価
春から夏	①	園敷地内の畑を活用して、園児が自ら手で土を掘り、種芋やなすときゅうりの苗を植え、花の観察と草むしり・収穫まで行い、その野菜を食した。	食べたときの「おいしい！」の一言は笑顔満面。保護者からも「野菜を食べるようになった」などの声も聞かれ、この一連の活動を通して、農作物の成長過程の観察と食の大切さ、食品ロスを認識し食育の推進を図ることができた	A
		季節の花の種子及び球根の観察と感触を味わい、成長過程を観察し記録する ○年少　ひまわり ○年中　あさがお ○年長　ミニトマト ＊品種を隠した苗	様々な花や樹木について興味関心を高めることができた。自分が植え付けした種から芽が出たときの喜び、その後の成長過程を楽しみにして、花が咲いた日は満面の笑みであった。 また、品種を教えない苗を植えたことで、葉や茎を観察して図鑑で調べたりする姿があり、実がなったところで判明し、予想との検証で楽しめた。	
年間を通して	①	園内でウサギ、かめ、金魚を飼育し、餌やりや一部掃除等をさせるなど、日常的に動物と触れ合う。	身近な動物への接し方を考え、その動物の特徴を知り、命を大切にする感覚を育むことができた。	A
		春から夏に、園児や教員が持参したカブトムシや蝶の幼虫を飼育・観察をする。	幼虫から成虫になるまでの進化の過程と成虫になると屋外へ羽ばたかせ、その姿を見送る園児たちの眼は期待と喜びいっぱいであった。生き物の成長の喜びを体得できた。	
年間を通して	①	芝生の温もりは、園児の健全な発育･情緒安定に役立っており、年間維持するために作業を計画的に行う。また、地域の環境の向上と緑化推進により地域住民への環境の向上としても有効的である。 春と秋のｵｰﾊﾞｰｼｰﾄﾞ、定期的な肥料散布とスパイキング作業、芝刈り随時行うことで維持管理する。	園児たちが好んで芝生の上で鬼ごっこや縄跳び、ボール蹴りを楽しみ、新芽の頃には寝転んでごっこあそびができる大好きな場所である。 水はけの良さからあそび場の確保が短期間でできた。 情緒の安定と怪我防止の効果は極めて大きい。	A
5月小動物 9月水の中の生き物	①	5月のふれあい動物園と9月の移動水族園と称して、小動物との触れ合いと水中の生き物とのふれあいを目的に実施することが定着。	動物とのふれあいで弱者への配慮と命の尊さを心臓の音を聞くことで実感し、日常生活での他への優しさ、いたわり、共存について理解・体得することができた。 また、水の中の生き物とのふれあいについて秋に実施したことで、身近な生き物への興味関心がより高まったと同時に、陸の生き物と水の生き物の比較対象もできた。	A

評価　A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果が無かった